

2022年11月18日

各位

三井住友信託銀行株式会社

アマタホールディングス株式会社との MEGURU STATION®に対する インパクト評価の共同実施について

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:大山一也、以下「当社」)は、社会全体の持続性を向上させる「社会デザイン事業」を推進するアマタホールディングス株式会社(代表取締役社長兼 COO:佐藤博之、以下「アマタ HD」)と、互助共助コミュニティ型の資源回収ステーション「MEGURU STATION®」(以下「本ステーション」)を対象に、インパクト評価(※1)を共同で実施することについて基本合意書を締結しました。

本ステーションは、住民自身が家庭ごみを分別し、資源を持ち込むことで地域のサーキュラー・エコノミーを促進する「資源回収機能」と、くつろぎの場など世代を超えて住民同士が交流する「コミュニティ醸成機能」を併せ持つ、互助共助コミュニティ型の資源回収ステーションです。アマタ HD はこれまで、宮城県南三陸町、奈良県生駒市、兵庫県神戸市、福岡県大刀洗町で自治体や地域住民と共に本ステーションの実証に取り組んできました。インパクト評価により、本ステーションが社会にもたらす好影響(社会・環境・経済的インパクト)を可視化し、今後の自治体や企業との連携推進を加速させ、サーキュラー・エコノミーを促進する事業の展開速度を引き上げていきます。

【MEGURU STATION®のイメージ】

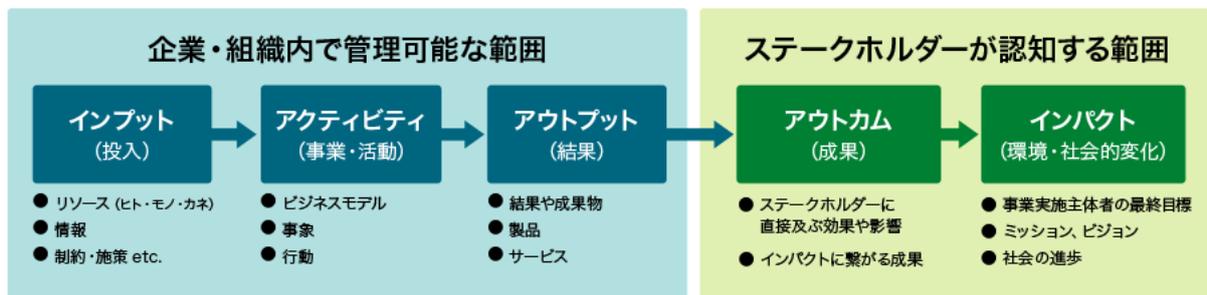


当社は、経済活動のなかで廃棄されていた製品や原材料などを「資源」と考え、リサイクル・再利用などで活用し、資源を循環させる、新しい経済システムであるサーキュラー・エコノミーへの移行を推進しています。アマタ HD とのインパクト評価共同実施を通じ、本ステーションの取り組みを加速させることで、社会的価値の創出に貢献していきます。

(※1)インパクト評価

ある企業の製品・サービス・活動が社会・環境・経済に及ぼす影響(インパクト)を、可視化して定量的、定性的に評価する手法です。企業活動からインパクト創出までの過程をロジックモデルにより可視化します。可視化することによりステークホルダーとの合意形成および、インパクト最大化に向けた事業の改善が可能となります。

【ロジックモデルの概要】



以上